主催：「小さな自然再生」事例集編集委員会

共催：豊田市矢作川研究所／日本河川・流域再生ネットワーク

「小さな自然再生」現地研修会（第 1 回）開催報告

2015 年 9 月 8 日（火） 愛知県豊田市・岩本川

座学による講義

岩本川での研修

岩本川の生き物見学

ワークショップ風景

日本河川・流域再生ネットワーク

2015 年 10 月 23 日

Our Life, with River 河川整備基金 公益財団法人河川財団による河川整備基金の助成を受けています

「小さな自然再生」現地研修会（第１回）開催報告

2015 年 9 月 8 日（火） 愛知県豊田市・岩本川

はじめに

小さな自然再生の実践を通じて技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」により「水辺の小さな自然再生事例集」が２０１５年３月に刊行されました。

この事例集で紹介した小さな自然再生の考え方や留意点、現場の工夫等について事例集編集委員による講義や意見交換を通じて学ぶとともに、これから小さな自然再生を取組もうとしている現場を歩きながら小さな自然再生の知見を共有することを目的に、２０１５年９月８日（火）に愛知県豊田市の矢作川研究所及び岩本川にて研修会を開催しました。

この開催報告は、小さな自然再生の技術や協働の進め方について研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修に全面協力頂きました豊田市矢作川研究所及び「小さな自然再生」事例集編集委員会の皆様、またプログラム企画や司会進行を務められた一般社団法人 ClearWaterProject の皆様に厚く御礼申し上げます。

2015 年 10 月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRN)

開催概要

- 開催日時：　2015 年 9 月 8 日（火）10:00～17:00
- 開催場所：　豊田市矢作川研究所　2 階会議室　／　矢作川水系岩本川
- 参加者：37 名（一般参加者：15 名、豊田市関係者：10 名、事例集編集委員会 12 名）
- 主　催：　「小さな自然再生」事例集編集委員会
- 共　催：　豊田市矢作川研究所　／　日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 講師：　豊田市矢作川研究所　／　「小さな自然再生」事例集編集委員
- 司会進行：　一般社団法人 ClearWaterProject

プログラム

（午前）会議室にて「水辺の小さな自然再生」事例集等を教材とした座学研修

✧ *10:00-10:05:* 主催者挨拶・プログラム概要説明

✧ *10:05-10:15:* 岩本川における取組み紹介（矢作川研究所）

✧ *10:20-11:15:* 小さな自然再生の考え方、留意点、事例紹介
（三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）

✧ *11:20-11:40:* 地質・地形特性からみた岩本川の特徴
（原田守啓：岐阜大学 流域圏科学研究センター）

✧ *11:45-12:00:* 岩本川の生物群、生息場の紹介（矢作川研究所）

（昼休み）*12:00-12:45:* 各自昼食（豊田市駅周辺店舗　*or*　弁当を購入し矢作川研究所内にて）

（午後１）岩本川にて現場研修

✧ *12:50:* 矢作川研究所　正面玄関前集合・出発（現地への大型バス乗車地点）

✧ *13:15-14:10:* 岩本川を歩きながら、小さな自然再生に関わるアイデアを交換。

✧ *14:10:* 岩本川現場（豊田市扶桑公園駐車場）出発　→　豊田市矢作川研究所へバス移動

（午後２）会議室にて岩本川の小さな自然再生に向けた議論

✧ *14:40-15:10:* 福岡・上西郷川の事例紹介（林博徳：九州大学大学院 工学研究院）

✧ *15:15-17:00:* 座学と現場研修を踏まえ小さな自然再生の技術や協働の進め方の討議

開会挨拶

進行役の ClearWaterProject 田中さん

編集委員会を代表して三橋委員より事例集紹介

「小さな自然再生」事例集編集委員会を代表して、兵庫県立大学　自然・環境科学研究所の三橋さんより事例集制作の経緯や概要、また本日の研修会の趣旨などについてご説明を頂きました。

座学研修（午前及び午後の一部）

ふるさとの川づくり～岩本川～　水辺の小さな自然再生をめざして（早川匡：矢作川研究所）

本日の研修場所である岩本川の特徴や課題（地元の川離れ、川を見守る後継者の不足、不十分な流下能力など）、またこれから目指していきたい川の姿などについて紹介頂きました。

岩本川の川づくりでは、親～子～孫の３世代が参加し、川遊びが伝えられていくことを目指していきたいとのことでした。

小さな自然再生のすすめ（三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）

小さな自然再生の基本的な考え方（定義、進め方、波及効果など）が、事例を踏まえ紹介されました。身近な川に触れること、川づくりに対する認識のハードルを下げることで、“出来ることはたくさんある”ということが基本認識として共有されました。

地質・地形特性から見た岩本川（原田守啓：岐阜大学 流域圏科学研究センター）

岩本川の地質・地形（花崗岩帯の砂河川、地形の起伏、流域面積など）から河道特性を読み解くポイントが紹介され、洪水に対する流下能力の確保と合わせて、普段の流量でも澪筋が保たれるような工夫が必要であることが川づくりの論点として示されました。

岩本川の生物群、生息場（山本大輔：矢作川研究所）

岩本川の生物群、生息場の特徴として、主に魚類から見た岩本川の環境が紹介されました。岩本川にかつてたくさん見られていたウナギやモクズガニ、そして“川ガキ”が戻ってくるような、ふるさとの川への思いが伝わりました。

上西郷川 市民主体の多自然川づくり
（林博徳：九州大学大学院 工学研究院）

岩本川と同様の花崗岩地質特性を持つ福岡・上西郷川の取組み事例が紹介され、川づくりを楽しい体験と結びつけて、イベント等と連携して地域で川を管理していくことが成功の秘訣であることが示されました。

岩本川での活動紹介（ClearWaterProject 伊藤さん）

岩本川での現地研修（午後）

いよいよ出発

雨の中の現地研修がスタート

豊田市矢作川研究所による現場説明

上流へと進みます

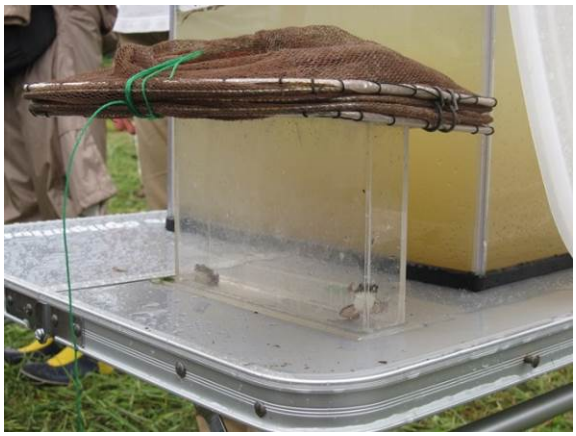
地元の方へのヒアリングもしっかりと

現場の特徴を勉強中

さらに上流へ

岩本川の生物観察（by ClearWaterProject）

たくさんの魚にエビ

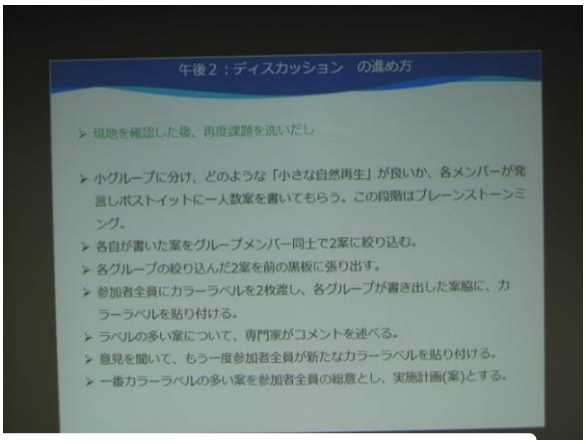


そしてカエルも

雨で水量が増えています

生き物観察に夢中

岩本川での小さな自然再生を考えるワークショップ（午後）



ファシリテーターの ClearWaterProject 田中さんより進め方の説明

６班でのグループ討議が始まりました

座学と現場研修を踏まえ、岩本川で小さな自然再生を取組む上での技術や協働の進め方について、ワークショップ形式で意見交換を行いました。６つの班に編成された参加者それぞれが、岩本川で実施できそうな小さな自然再生の具体的なアイデアを出し合い、各班で絞り込んだ最適案を発表し、実現性を含めて議論を行いました。

各班で様々なアイデアが集まりつつあります

・資源が残っている（どう生かすのか）
・区間を決める、魅力をひきつけるもの
・子どもと大人（親子で参加）
・楽しい面白い作業
・周辺の住民、実際の利用者の、どうしたらよいかの意見（方向性）が見えない
・どこかに短い区間でもよいので緩傾斜堤をつくる
・川に下りる工夫（はしごでいいか）
・進入路を設置する（安全面が大事）
・水面に下りる階段やスロープが必要
・川面が見える工夫、土手の植生
・外から見えるようにする
・草刈りを実施する
・除草を頻繁に行う
・落差工を無くす（土砂を流す）
・落差工に切欠きを設ける
・河床をできるだけ攪乱するように水制工などを設置する
・土砂の堆積を抑制する
・土砂をためない工法、何かないか？（粗朶を使う）
・縦断方向の連続性確保
・連続性を持たせる
・魚道を設置する
・川側を向く（むかせる）工夫
・川の上まで人を活かせる工夫
・降りる土手
・除草し、除草した草の有効利用（堆肥）
・遊水地的な利用（農業者と調整）※公園と木材置き場は遊水地として機能している
・川にアプローチしやすく（開けた場所）
・田んぼを下げる（同意を得たところから下げる）※川を上げるより合意を得やすい
・いい感じのところで草刈りを頑張る（土砂を動きやすくする）
・野焼きの復活
・知識、パッション
・草刈りのイベント化
・草に覆われて水面が見えないと川らしくない
・川が遠い
・部分的に拡げて川を見えるようにする
・近くの学校を探す（学校を巻き込む）⇒知識、パッションで説得
・増えすぎた雑草は刈るようにする
・地域で山羊を飼って草を食べてもらう
・植生繁茂を抑制する
・上流部の植生群落を有効活用する
・上流部にある建材屋に適切な指導をし濁水や土砂の流出を防ぐ
・杭と縄梯子で楽しく川に下りられるようにする
・いつでも安全に遊べる場所をつくる
・環境のイベントがあることを知らせる広告が必要
・つり道具、遊び道具などを貸し出すイベントを行う。
・どんな生物がいるか看板をつくる
・小学校の授業（道徳、総合）の中で環境学習の時間を増やす
・地先住民は川の利用を望んでいるのか？
・子どもや若い人が、お年寄りに昔の川のことを聞く（地元学）

各班からはこんなアイデアが（1/3）

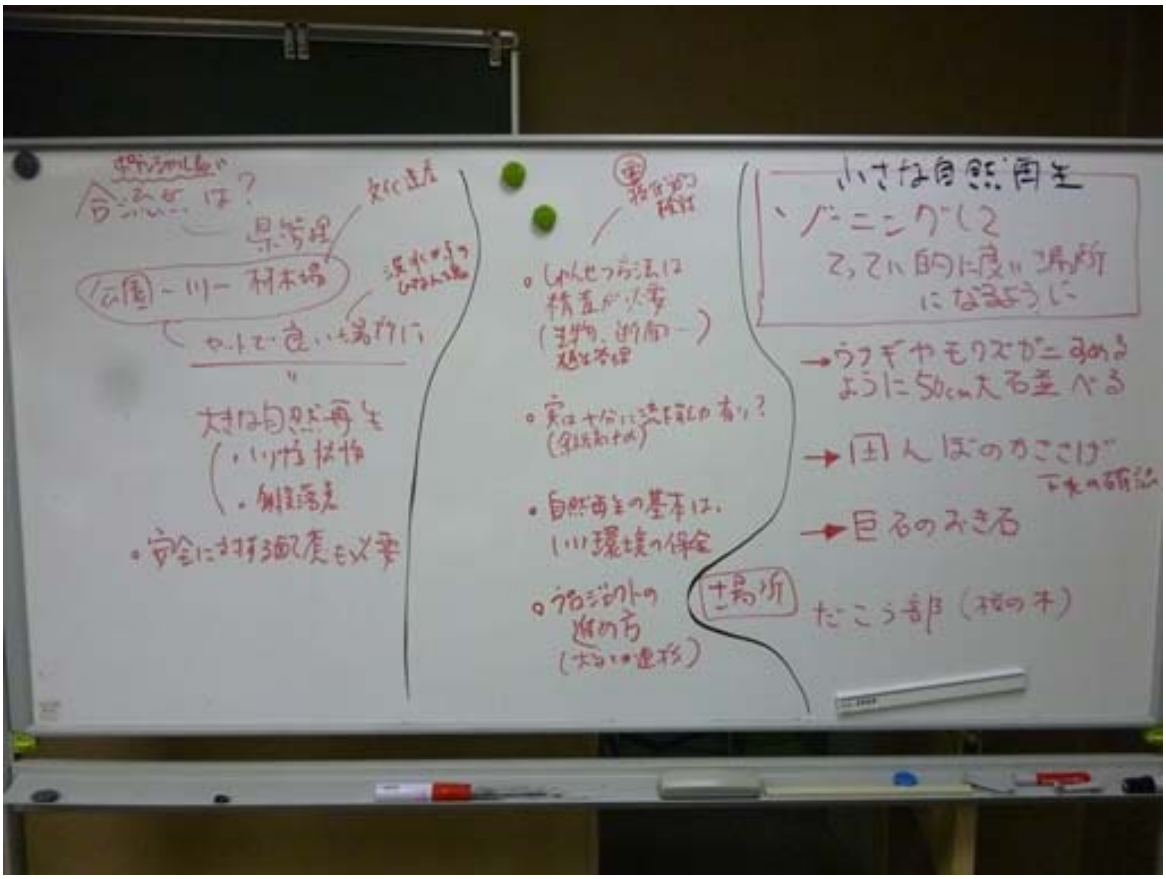
・もっと綺麗な景観をつくる
・川のみお筋を蛇行させる、瀬淵をつくる
・田んぼと家々、川がまとまった地域と感じた
・子供会とも繋がっている
・地元の結束が強い
・土砂の供給があり掘削しても回復しやすい
・歴史の重みのある地、交通の拠点だった。
・家の前は草刈りされていた
・カブトムシが絶対採れる
・草ボーボー　入れるようになれば地元草刈り活動あるので延長できる？
・勾配がありしっかりと流れがある
・合流点近くに公園と貯木場がある
・矢作川本流から近く、アユ等の魚類が上る可能性
・数年前にホタルがたくさん発生した
・丘陵にある雑木林が素晴らしい
・水田がとてもきれい
・水量が豊か（多い）
・草が繁茂し過ぎ
・砂がたまり過ぎ（5月浚渫の4か月で水面に顔のぞかせるレベル）
・田んぼとの連続性が無い
・団地からの水が汚れているらしい
・ホタルの上陸が困難
・平水時に水位が低い
・本川との連続性が無い
・川に近づきにくい（草が茂り過ぎ、アクセス階段等がない）
・イベントする
・河川で安全に遊びができる場所をつくる
・環境学習を地元中心で行う
・草刈りをする（区間を決めて）
・魅力探しのイベントをみんなで行う
・桜並木の辺りを草刈して中も刈る
・砂がたまらないorたまっても治水上問題ないようにできないか？
・3世代　川マップをつくりたい（川遊び、橋、水車）
・ふかみができるところ、水深が確保されているところをつくる（水制、巨石）
・ホタルをシンボルにした川岸づくり（苔の斜面）
・田んぼ嵩上げ
・水質調査が必要
・魚が本川からのぼり易い手づくり魚道
・タテ（矢作川）、ヨコ（田んぼ）のつながりを持たせる
・最下流の公園を川までなだらかに入れるようにする。
・最下流公園部分をもっと川幅拡げられるのでは？
・川に入れる階段orスロープを３つ～４つ欲しい（川下流に向けて）
・落差工を一部切り下げ流速を上げる
・土砂がたまるところは決まっているのでピンポイントで対策する。
・巨石を置いて水みちを散らす、深みをつくる
・拡幅（澪筋）
・全部浚渫ではなく一部残す
・掘削した時に断面系をつくっておく
・川が窮屈そう（河道を拡げる、砂を流したい）
・今あるみお筋を活かした河床掘削（常時水面より上だけでの掘削）

各班からはこんなアイデアが（2/3）

・狭めの澪筋（水深が深い）
・草の生えた水際（魚の隠れ家）
・植生（生息環境）
・川の中に植物がることは良い
・植生高が高い
・浚渫後の断面へ石等を並べ、生物の棲みやすい環境をつくる
・外来植物を刈り取る
・周辺との連続性（水田からタナゴとかが一方的に流下してきている）
・塞き上がって結果的に落差が小さい（水面が下がると落差がでかくなる）
・大きな落差を和らげたい
・水門近くの落差について、直下に様々なサイズの石を並べて階段にする
・落差の存在（直下に石を並べる）
・拠点化、メリハリ、重点化
・川幅を広くする
・コンクリート護岸はいらない
・階段護岸もしくは緩勾配の護岸
・川への入り口をつくる
・地元が管理しやすい施設づくり、階段の設置、ある程度の浚渫
・イベントをやる人、地元を盛り上げる仕掛け
・護岸の前に土砂でスロープをつくる（人のアクセス）
・地元管理が実施される（草刈り等）
・アクセスできない、視認できない
・水にさわれることが必要
・河道内へ入る進入路がない
・人が川に下りられない
・川遊びの思い出、さなかの呼び名を残したい
・そもそもどれぐらいの住民がいるのか？　子供たちは？
・誰に向けての自然再生か？
・川の中に植物があるのは良いこと
・人と川のかかわりの歴史
・現況の生態そのまま（草刈りは実施）
・イベントをやる（ホタル、魚を食べる）※下水チェック必要
・田んぼとのつながり
・降りるところをつくる（階段はあったほうがいい）
・一旦浚渫（何かやる、但し全部やるのは無理）
・愛護会があるメリットを生かす（公園を拠点に）
・大学との連携
・地元でのワークショップと人材育成
・ゾーニング）（機能分化）
・草刈りのみでそのまま
・下りれる小技セット
・水が引いた時の様子は？（水が少ない）
・浚渫の時、生物保護
・ゾーニング

各班からはこんなアイデアが（3/3）

各班のアイデアを集約へ



いよいよワークショップのとりまとめへ（編集委員の林先生も板書をサポート）

最後に岩瀬委員より達人アドバイス

早川所長よりお礼の挨拶と今後の予定のご説明

ワークショップのまとめメモ

コンセプト：

ゾーニングして徹底的に良い場所ができるような環境をつくる

→ウナギやモクズガニが棲めるように５０ｃｍ大石を並べる

→田んぼの嵩下げ

→巨石の置き石

場所：　蛇行部（桜の木）

（必要な）技術的検討

・浚渫方法は精査が必要（生物、断面、植生管理）

・実は十分な流下能力（余裕高＋の）がある？

・自然再生の基本は、良い環境の保全

・プロジェクトの進め方（大学との連携）

留意事項：

・ポテンシャルの高い合流点

　公園～川～貯木場（文化遺産）をセットで良い場所にする。

・大きな自然再生

　川幅拡幅、多段落差

・（川に降りることに対して）安全に対する配慮も必要。

参加者募集チラシ（表面）

「小さな自然再生」現地研修会（第１回）

2015年９月８日（火） 愛知県豊田市・岩本川

【開催趣旨】

「水辺の小さな自然再生事例集」（2015年３月発行）で紹介した小さな自然再生の考え方、留意点、現場の工夫等について、事例集編集委員による講義や意見交換を通じて学びます。また、これから小さな自然再生を実施予定の矢作川流域岩本川にプロジェクト関係者とともに足を運び、現場を歩きながら川の特徴やプロジェクトの進め方を議論し、参加者とともに小さな自然再生の知見を共有します。

- **日　時：　2015年９月８日（火）10:00～17:00**
- **会　場：　愛知県豊田市（豊田市矢作川研究所／岩本川）**
- **対　象：　小さな自然再生に関心のある方々**
- **定　員：　50名**
- **参加費：　無料**（懇親会別）
- **プログラム（案）：**

岩本川

■講師：矢作川研究所／事例集編集委員、■司会進行：（一社）ClearWaterProject、■記録等：JRRN事務局

※タイトル及び講師は変更の可能性があります。

（午前）会議室にて「水辺の小さな自然再生」事例集を教材とした座学研修

- 岩本川における取組み紹介（*矢作川研究所*）
- 小さな自然再生の考え方、留意点、事例紹介（*三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所*）
- 地質・地形特性からみた岩本川の特徴（*原田守啓：岐阜大学 流域圏科学研究センター*）
- 岩本川の生物群、生息場の紹介（*矢作川研究所*）

（昼休み）各自昼食（豊田市駅周辺店舗　or　弁当等）

（午後１）岩本川にて現場研修

岩本川を歩きながら、川の様子、生き物、地質等を観察し、小さな自然再生に関わるアイデアを交換。

（午後２）会議室にて岩本川の小さな自然再生に向けた議論

- 岩本川と同様に花崗岩地質特性を持つ福岡・上西郷川の事例紹介（*林博徳：九州大学大学院 工学研究院*）
- 座学と現場研修を踏まえ、小さな自然再生の技術や協働の進め方について意見交換。

※研修会終了後(17:30-19:30)、豊田市駅周辺で懇親会を予定しています。（自由参加　※要事前申込）

※参加申込み方法、会場までのアクセス、問合せ先は裏面をご覧ください。

Our Life, with River 河川整備基金　公益財団法人河川財団による河川整備基金の助成を受けています

主催：「小さな自然再生」事例集編集委員会

共催：　豊田市矢作川研究所、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

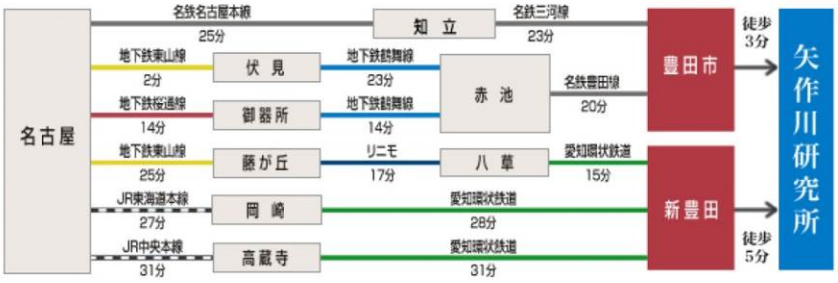
JRRN Japan River Restoration Network

参加者募集チラシ（裏面）

会場のご案内

豊田市矢作川研究所　URL: http://yahagigawa.jp/

〒471-0025　愛知県豊田市西町 2-19　豊田市職員会館 1 階　TEL：0565-34-6860
（名鉄豊田市駅より南へ徒歩５分）



申込み方法　E-mail： info@a-rr.net ／ Fax：03-3523-0640

必要事項（氏名・所属・連絡先・懇親会への参加の有無）を明記の上、E-mail または FAX でお申込み下さい。（**申込〆切日：2015 年 8 月 20 日（木）**）

ふ り が な	
氏　　名	
所　　属	
連　絡　先	（いずれかに○）　自宅　／　所属
	〒 住所：
	E-mail：
	電　話：
懇　親　会	（いずれかに○）　参加　／　不参加　※懇親会費用は各自負担

※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRN が主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。

【お問い合わせ】
日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局　（担当：　後藤勝洋・和田彰）
〒104-0033　東京都中央区新川 1-17-24　新川中央ビル 7 階　（公財）リバーフロント研究所内
Tel: 03-6228-3862　Fax: 03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net
Website: http://www.a-rr.net/jp/　Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN

Ver. 2015.7.28

（MEMO）

「小さな自然再生」現地研修会（第1回）開催報告

～　2015年9月8日（火）　愛知県豊田市・岩本川　～

2015年10月23日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033　東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号
公益財団法人リバーフロント研究所　内

電話:03-6228-3860　Fax: 03-3523-0640
E-mail: info@a-rr.net
URL: http://www.a-rr.net/jp/
Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN

JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　CTI 建設技術研究所 国土文化研究所